

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 中口 義次	提出日：平成23年3月9日
東南アジア研究所における職名： * 右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・ 助教 ・助手・ポスドク・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
派遣先の研究機関等（調査を実施した国名・機関名及びカウンターパートの研究者名）： インドネシア、アンダラス大学医学部、Abdul Aziz DjamaI 准教授 * 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所○をつけてください。(大学・研究機関・企業・その他)	
派遣期間： 平成23年1月29日 ～ 平成23年2月20日 (派遣日数：23日)	
研究活動等の主な内容（該当する番号に○をつけてください。複数可） ① 研究・実験 、②フィールドワーク、③セミナー、④インターンシップ、⑤サマースクール等の講習、⑥学会出席、⑦単位取得等、⑧その他	
研究活動の主な領域（該当する番号に1つ○をつけて下さい。） ①人文学、②社会科学、③数物系科学、④化学、⑤工学、⑥生物学、⑦農学、⑧ 医歯薬学 、⑨総合領域、⑩複合新領域	
派遣の概要（500～700字程度） 1万を超える島々から構成されるインドネシアは、480を超える民族からなる多民族国家である。その大部分は熱帯地域に属しており、年中高温多湿な気候である。そのインドネシアで暮らす人々にとって、現在でも、感染症は最も重要な疾患の一つである。高温多湿の気候で、衛生環境が整っていないため、感染症の原因となる病原体の生存する環境としては最適であるといえる。魚介類の喫食を介して引き起こされる腸炎ビブリオ感染症は、1950年に日本で最初に発見された感染症であるが、現在では世界中でその発生が確認されている。また1996年以降、アジアを中心に発生したと考えられている世界的大流行株による腸炎ビブリオ感染症は、瞬く間に世界中にひろがり、現在でもその流行が継続している。しかし東南アジアの国々では、その国々の医師および医療機関でも、腸炎ビブリオ感染症による下痢症の発生が確認されていない国々も多い。それは、腸炎ビブリオ感染症の発生が調査されていないことと、認知されていないことにある。近年の経済発展から健康志向が高まり、衛生環境および流通環境の進展から、魚介類の消費および生産が盛んになっている。インドネシア国内でも、魚介類の生産および消費は盛んであり、エビ類などは盛んに養殖もなされ、欧州や日本などの東アジアの国々にも輸出されている。このような状況の中、インドネシア国内で、腸炎ビブリオ感染症の発生を把握し、その原因となる腸炎ビブリオの病原性菌株を魚介類から確認することは、地域に暮らす人々の健康を考えるうえで、重要である。2010年10月、シンガポールとの国境に近いパタム島の下痢症患者から、腸炎ビブリオ感染症の発生を初めて確認した。このようなことからスマトラ島を中心として、環境中の魚介類から腸炎ビブリオ感染症の原因となる病原性菌株の汚染を調査した。	
事業に係る研究成果（500～700字程度） 到着後、現地での共同研究者であるアンダラス大学医学部の Abdul Aziz DjamaI 准教授および研究者達と実験およびサンプリングのスケジュールについて詳細に打ち合わせた。魚介類を汚染している腸炎ビブリオ病原性菌株の検査については、前半でパダン市周辺で入手可能な魚介類、後半で、2010年10月に患者を確認したパタム島からの魚介類をサンプルとして使用することとした。パダンで20の魚介類サンプルを入手し、同様に、パタム島からは12の魚介類サンプルを調査した。その結果、腸炎ビブリオ感染症を引き起こす病原性因子を増菌培養法と遺伝子検査法により、パダンの魚介類で6サンプル、パタム島からのもので9サンプルについて確認した。ただし腸炎ビブリオの主要な病原性因子のうち、より患者が多くみられる <i>tdh</i> 遺伝子を持つものではなく、今回は、 <i>trh</i> 遺伝子を保持するものばかりであった。このことにより、2010年10月に初めて、インドネシア国内で患者が確認された腸炎ビブリオ感染症の原因となる腸炎ビブリオの病原性菌株により汚染された魚介類の存在が、分子遺伝学的手法により、インドネシア国内で食されている魚介類から、初めて確認された。ジャカルタにおいて、インドネシア国内で消費されている魚介類およびその調理法などについても聞き取り調査を実施し、魚介類は比較的高価であるが、それでも、消費が増えていることがわかった。 この派遣における研究成果は、2011年度に日本国内で開催される学術会議において、発表予定である。また、2011年10月17-18日にインドネシアのパダンで開催される予定の国際シンポジウムでも発表する予定である。	